



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2020年1・2月
第332号

病院だより第332号 (2020年1・2月号)

発行者

昭和大学藤が丘病院

発行責任者

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

編集責任者

藤が丘病院長 高橋 寛

〒227-8501

横浜市青葉区藤が丘 1-30

TEL

045-971-1151

新年のご挨拶

昭和大学藤が丘病院
病院長 高橋 寛

新年、明けましておめでとうございます。職員の皆様におかれましては、希望に満ちた新年を迎えられたことと思います。

今年の干支は子年です。子年の本来の意味は『漢詩律暦志』によると「子」は「増える」を意味し、植物が子孫を増やそうと成長し始める種子の状態を表すと解釈されています。2019年は「命が宿る年」更に2020年は子年で「芽が出る年」とされています。

藤が丘病院は昨年末に電子カルテのサーバーの入れ替えがありました。そのため年末の3日間は電子カルテが停止したために、紙カルテでの運用となりました。この作業に伴い救急部門や病棟業務には多大な負担をお掛けしましたが、何とか乗り切る事が出来ました。

さて、今年の藤が丘病院に関する話題は何と言っても再整備の問題が一番と言っても過言ではありません。これまでに藤が丘駅を中心とした都市整備を横浜市や東急電鉄と協力して推進してきましたが、いよいよ準備状況が佳境に入った感があります。藤が丘駅周辺の再整備にとって横浜市北部地域の拠点病院である藤が丘病院が機能を十分に発揮することにより、地域への貢献が出来ると思います。

病院の目標としては、安心・安全な病院運営を行うことが重要です。医療安全に関しては、「起こる可能性がある事柄はいつか必ず起こる」と考えて対応しなければなりません。また、これまでに起こったインシデント・アクシデントの経験を活かし、同じ過失をしないように努力しなければなりません。感染対策については、院内発生の感染症のみならず、院外より持ち込まれるインフルエンザやノロウイルスの侵入を阻止することで入院患者さんの命を守るために職員一同の協力が必要であり、質の高いチーム医療の実践が強く望まれます。

藤が丘病院は大学附属病院であり、臨床・教育・研究の施設であることを自覚しなければなりません。藤が丘病院の設立の理念は、至誠一貫に沿って「使命感をもった医療人の育成と地域医療へ貢献する」ことです。この理念を忘れず、「成長を始めた種子」のように病院の更なる躍進のため、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様にとってより良い年となることを祈念して新年の挨拶といたします。



新年のご挨拶

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
病院長 市川 博雄

令和2年の子年という新たな年を無事迎えるにあたり、病院のスタッフ、近隣の先生方ほか、多くの方々のお力添えに感謝を申し上げます。

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院は平成2年、西暦では1990年に開院しております。令和2年となる西暦2020年の今年は開院から30年という節目の年となります。当院はこれまで診療科や病床の変遷を経てまいりましたが、開院以来一貫して総合的なリハビリテーション医療を提供することに常に力を注いでまいりました。現在では全197の病床のうち一般病棟が101床、回復期病棟が96床であり、回復期病棟では1年365日体制でリハビリテーションを提供しております。脳血管障害、整形外科疾患、内部障害など、多様な病態に対するリハビリテーションを行っておりますが、心臓リハビリテーションにおいては、昨年10月に横浜市の心臓リハビリテーション強化指定病院の位置づけを頂きました。今後は心臓リハビリテーションの普及や心臓リハビリテーション指導士の育成においてさらに重要な役割を担うこととなります。

また、当院では診療の柱でありますリハビリテーション医療のほか、眼科診療を行っております。当院眼科では多数の白内障手術を実施しており、昨年には最先端のレーザー白内障手術装置を導入いたしました。多焦点レンズを用いた先進医療を含め、より安全で正確な手術を実施できるよう取り組んでまいりたいと思います。

当院は、昭和大学藤が丘病院、昭和大学横浜市北部病院とともに、横浜3病院として連携を深めてまいりました。本年からはこの3病院の患者IDが統合され、電子カルテもOne Server化することになりました。これにより、3病院間の連携強化はさらに深まるものと期待されます。また、なによりも受診される方々の利便性向上に繋がることを願っております。今後とも至誠一貫の信念に基づき、病院の理念であります医療の質・安全の向上、患者本位の医療、地域への貢献、医療人の育成に努めてまいりたいと思います。

この新しい年が皆様にとりましてより実り多き年となりますよう心より祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。



広く質の高い医療で地域に貢献します

藤が丘病院産婦人科
診療科長 森岡 幹

藤が丘病院産婦人科は昭和50年の開院以来、昭和大学の附属病院として、昭和大学病院(旗の台)、横浜市北部病院(横浜市都筑区)との連携のもと、また地域の先生方や患者さんに支えられて発展してきました。最近では少産や分娩取り扱い施設が少なくなっている中、地域の中核病院として24時間体制で広く産婦人科疾患に対応できる体制を整えています。

《診療体制》

現在13名体制で診療を行っており、日本産科婦人科学会専門医9名(指導医4名)、婦人科腫瘍専門医2名(指導医2名)、内視鏡技術認定医1名、周産期専門医1名、超音波専門医1名が在籍しております。



外来においては初診、婦人科再診、妊婦健診、婦人科腫瘍外来を基本とし、午後からは治療方針外来(良性、悪性疾患)、手術外来、検査外来(コルポスコプ、子宮鏡外来)など細分化してスムーズな診療ができるよう取り組んでいます。

《診療領域》

産科: 分娩は本来自然現象であり、できる限り自然に、かつ母児ともに安全に終了することが理想です。当院ではリラックスして分娩が迎えられるように産婦さんをサポートしています。一方、医学的な必要性があった場合には陣痛促進剤を使用したり、帝王切開に切り替えることがあります。緊急帝王切開、吸引分娩、鉗子分娩に関しても迅速に行える体制を整えています。地域連携施設での分娩時緊急事態(常位胎盤早期剥離、産科危機的出血)の発生時には状況に関わらず原則受け入れを行っています。

婦人科: 悪性腫瘍治療(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌等)、腹腔鏡下手術(子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜症、異所性妊娠、骨盤臓器脱等)に特に力を入れています。子宮頸癌、子宮体癌手術については、腹腔鏡下子宮体癌手術の保険適応を取得しており、低侵襲手術を取り入れています。骨盤臓器脱については腹腔鏡下仙骨靭帯固定術を積極的にを行っています。再発率が低く、腔式メッシュ手術に比べてメッシュびらんのリスクが低いこと、鏡視下に行うためブラインド操作がなく安全に手術を行うことができます。

地域の先生方からの紹介患者さんが多く、連携をとりあって治療をすすめています。患者さんが理解しやすいように時間を



とってお話し、患者さんたちがエビデンスに裏打ちされた最適な治療が受けられるよう努力しています。また、当院から他の医療機関へのセカンドオピニオンも積極的にすすめております。

藤が丘病院産婦人科は、地域に密着した体制をとっており、幅広く良質の医療で地域に貢献していきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

最新CT装置 Revolution Maxima が導入されました

放射線技術部 技術部長 秋山 真之

この度藤が丘病院に、最新技術を搭載した全身用CT装置 Revolution Maxima(GE ヘルスケア社製)が導入されました。最大の特徴は、人工知能 AI 技術を用いて開発された3D カメラです。CT 検査では検査部位ごと、かつ患者さんの体格に応じて、検査開始前に最適な位置合わせが必要です。この3D カメラで患者さんを写すことで、自動的に最適な位置合わせを行うことができます。この機能により、検査時間の短縮が可能となるだけでなく、同一患者・同一検査ごとの検査の再現性も確保されます。また、検査開始前の最適な位置合わせは、検査の被ばく線量の適正化にも影響します。すなわち、最適な位置合わせが行われることで、被ばく線量を低減させることができます。他には、最新型の X 線管球と X 線検出器、高度な画像処理技術が搭載されており、これまでの検査以上に高画質を実現することができます。今後は、今まで以上に最適な CT 検査を提供できるようにしていきます。



The Shodo ～書の道～

藤が丘病院中央手術室 看護師
書道同好会 佐藤美津恵

私たち書道同好会は、昭和大学藤が丘病院開院とともに発足し、現在も継続して活動を続けています。発足当時は、看護部が中心となり活動を行っていましたが、平成5年に現名誉教授の光谷俊幸先生が指導されるようになり活動が飛躍しました。現在、私たちは、墨光会という埼玉県を拠点に活動している会に所属しながら院外の展覧会へ出展しています。

発足当初から院内展は毎年行われてきましたが、現在では、毎年の開催が難しくなっていて、直近では2017年に行った秋の院内展です。この時には、多くの患者さんから沢山の声を頂き、管理課への問い合わせも多数頂きました。院内展は、病院の一部の空間が作品を鑑賞する場となり、一転して癒しの空間となりました。私たちの書が、患者さんに喜んで頂いたことに、部員一同大変感激致しました。こうした書を通しての感動や出会いを大きな励みとし部員一同2020年の院内展開催を目指して精進しています。



書道に興味のある方、やってみたい方は、ご連絡ください。
院内展に出品してみませんか？

第33回藤が丘地域連携フォーラムを開催

令和2年1月9日(木)、藤が丘病院にて第33回藤が丘地域連携フォーラムを開催しました。平成23年9月から始まった藤が丘地域連携フォーラムは33回目を迎えました。年始のお忙しい中、今回も68施設91名と大変多くの地域医療機関の先生方や関係者の皆様、病院関係者123名と合わせ214名の方々にご参加いただきました。



各講演においては活発な質疑がなされ、講演会後の懇親会では意見交換が賑やかに行われていました。ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。

なお、次回の地域連携フォーラムは、令和2年4月9日(木)に、呼吸器外科、眼科講演を予定しておりますので、多数のご参加を心よりお待ちしております。

第33回藤が丘地域連携フォーラム講演会 次第

1) 甲状腺疾患の鑑別とその治療

～甲状腺中毒症を中心に～

藤が丘病院 糖尿病・代謝・内分泌内科

大塚 史子

2) 当院で行っている医療連携ならびに口腔ケアについて

藤が丘病院 歯科・歯科口腔外科

松浦 光洋

(藤が丘病院 医療経営戦略課 馬杉 朗子)

職業体験を受け入れました

令和2年1月21日、横浜市立谷本中学校2年生の生徒が、藤が丘病院で職業体験を行いました。文部科学省のホームページによると、職業体験が求められる背景として、就職・就業をめぐる環境の激変や若者自身の資質等をめぐる課題、身体的な早熟傾向に比して精神的・社会的自立が遅れる傾向、働くことや生きることへの関心や意欲の低下などから、教育現場に求められる課題として示されています。

今回は9名の生徒が参加し、助産師・看護師・薬剤師・臨床工学技士の体験をしました。看護体験では、看護師とペアになり、患者さんへのケアやコミュニケーション場面の体験、薬剤師体験では、防護服に着替えて調剤室に入り安全キャビ



ネット(バイオハザード)を封じ込め、安全な作業環境を実現する設備)を使用し調剤の様子などを見学しました。また、

臨床工学技士体験では、人工呼吸器のシステムを踏まえた管理の方法や重要性などについて学びました。まとめの



時間では、体験を終えた感想として「スタッフ間で細やかな情

報が共有されていて、コミュニケーションが大切だと感じた」、「薬をつくる作業が行われている現場が見られてよかった」など、目を輝かせながら話してくれました。

今回の参加者の中には、将来医療の道を目指す生徒もあり、いつの日かこの昭和大学藤が丘病院で一緒にお仕事ができれば嬉しいな…と感じた一日でした。

(看護部 岡 紀子)

接遇マナー講習会が開催されました

令和2年2月27日(月)、令和元年度藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院接遇マナー講習会を開催しました。医師、看護師、事務職員などすべての職種の職員100名以上が受講しました。勤務時間中に集まることは困難なため、開講は業務が終了した後の17時過ぎという状況にも関わらず、大勢のスタッフが参加し、講師の話に耳を傾けていました。本講習会では、第一生命保険株式会社 松尾 久美子 講師をお招きし、患者さん及び職員間の正しいコミュニケーションの仕方を重点に置いてご講演をいただきました。隣席の人と実技



体験する時間も取られていたため、受講者も参加しやすく非常にわかりやすい講習会でした。

講習会後のアンケートには、ベテラン、若手問わず日頃の接遇を見直す良い機会になったという感想が数多く寄せられました。



今回の講習会が当院職員の資質向上の一環として貢献できることを期待しています。

(藤が丘病院 管理課 小泉 春樹)

出前授業を行いました

横浜市立谷本中学校2年の生徒が職場体験をした令和2年1月21日(火)、藤が丘病院の教員が横浜市立谷本中学校に出向き、1年生を対象に出前授業を行いました。今年度は糖尿病・代謝・内分泌内科の大塚史子准教授にご協力いただき、将来医療分野を志望する生徒たちに向けた「医療人の仕事」に関する職業講話を行いました。

病院で勤務する職種の説明や、医師になるまでの過程、実際の診療について等の説明を交えた授業に生徒たちは真剣な眼差しで耳を傾けていました。授業の終わりにはたくさんの質問をいただき、普段なかなか知ることのできない実際の医療現場について理解を深めることのできた有意義な時間となりました。



この先、生徒たちが職業や進路を選択するにあたって、今回の出前授業が選択材料や自分自身と向き合うきっかけとなったのではないのでしょうか。

(藤が丘病院 管理課 永井 彰)

診療統計 2019年12月・2020年1月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2019年12月	2020年1月	2019年12月	2020年1月
外来患者数	28,990人 (1,207.9人)	27,614人 (1,200.6人)	4,840人 (201.7人)	4,597人 (199.9人)
入院患者数	16,298人 (525.7人)	16,054人 (517.9人)	5,745人 (185.3人)	5,507人 (177.6人)
紹介率	82.6%	80.2%	77.0%	74.9%
逆紹介率	78.1%	74.5%	105.7%	84.6%

《広報委員会委員》

今井 敦 原田 浩史 佐々木 春明 市川 度 小岩 文彦 川手 信行
 泉 紀子 角田 博子 高木 睦子 鈴木 美穂 藤宮 龍祥 東 哲士人
 岡部 圭吾 斉藤 あずさ 和田 洋一 (順不同)